

30270 ✓

教科書文庫

3
810
41-1887
20000 18027

M20
1887

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

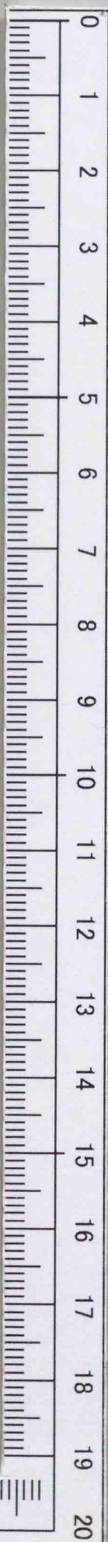
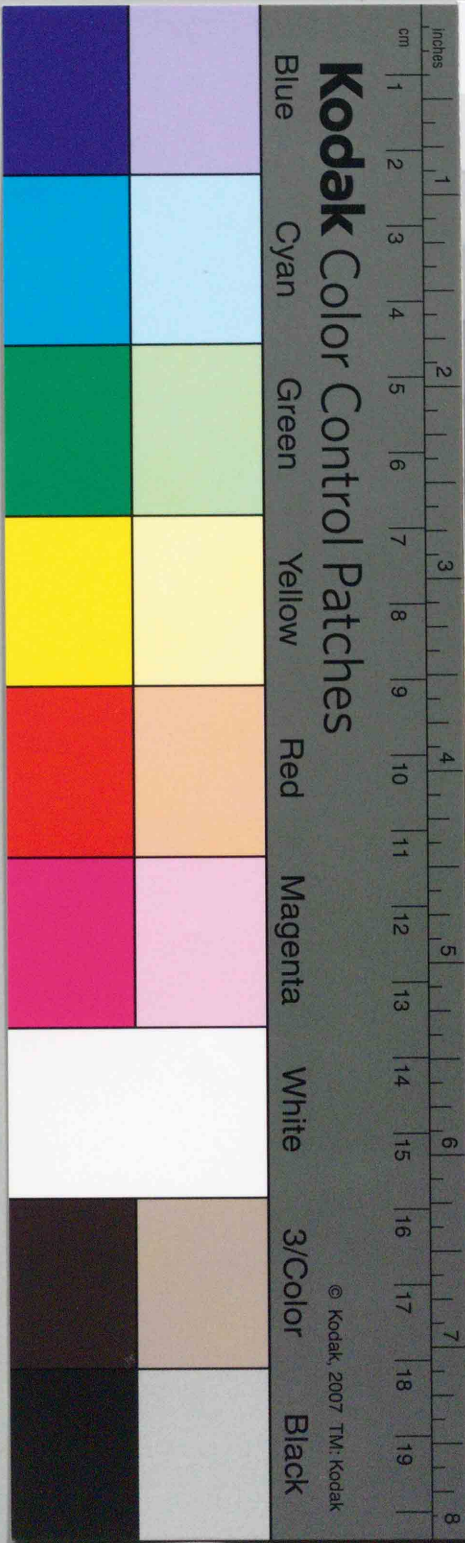


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



375.9
Gall
資料室

Ta
Toll

普通讀本

高橋熊太郎編

四編上





第十三課

大廣書
通讀本三編上

18027
圖書

高橋熊太郎 編

第一課 家畜ノ話

獸。畜。棲。性。馴。易。害。猫。豚。熊。狼。野。猪。狐。猴。

獸ハ人家ニ畜フ者アリ、山野ニ棲ム者
アリ。家ニ畜フ者ヲバ家畜トイヒ、山
野ニ棲ム者ヲバ野獸トイフ。家畜ハ
其性人ニ馴レ易クシテ、其用ヲナスコ

通讀本

三編上

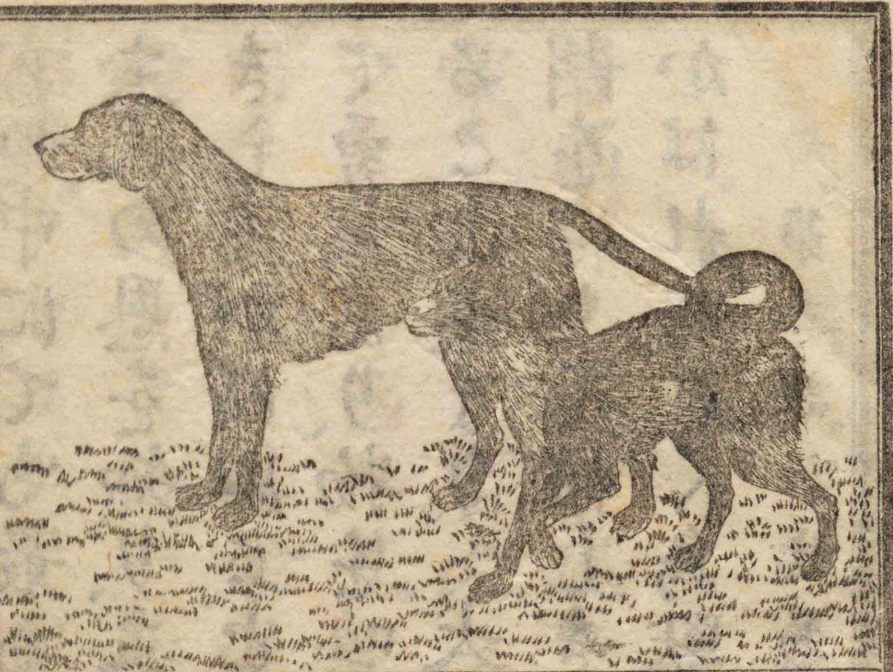
集英堂出版

ト少カラズ。野獸ハ其性概子アラク
シテ、間、人畜ヲ害シ、田畑ヲソコナフコ
トアリ。犬、猫、牛、馬、羊、豚等ハ皆家畜ニ
シテ、熊、狼、野猪、狐、猴等ハ皆野獸ナリ。

第二課 犬

足。古。耳。背。最。主人。恩。伶俐。勇氣。嗅。銳。走。
速。恠。吠。狩。捕。

茲に二足の犬あり。其一足は、我が國



に古くよりある所
の犬にして、耳は立
ち、尾は背の上に卷
きあげたり。又一
足は、近ごろ西洋よ
りあたりたる犬に
して、取も垂れ、尾も
垂れたり。犬は家

畜の中にてても、最もよく人に馴れ、よく主人の恩を知り、主人の到る處には付まじたがはぬことをなし。性伶俐にし、て勇氣あり、物を嗅ぐこと鋭くして、走ること速なり。犬は主人の爲めに、夜門を守りて、恠しきものに吠え、狩につかはれて、よく鳥獸を捕ふ。

第三課

忠義ナル犬ノ話。

昔。盲人。己。導。往來。乞。道案内。待。小錢。啣。帽。決。斯。思。

昔西洋ノ或ル處ニ一人ノ盲人アリ。常ニ己レノ畜犬ニ導カレ、市中ニ往來シテ食ヲ乞ヘリ。此犬ハ主人ノ道案内ヲシツ、其食ヲ乞フ間モ、必ず側ヲ離レズシテ待テ居レリ。人アリ、モシ小錢ナドヲナゲ與スルコトアルトキ

ハ之ヲ口ニ啣ミテ主人ノ手ニ持テル
帽ノ中ニ入レ又パンノ切レヲ投ゲ與
フルモノアルモ決シテコレヲ自ラ食
フコトナカリシトゾ。犬トイヘドモ
主人ヲ思フテ忠ヲツクスコト斯ノ如
シ人ニシテ不忠ナルモノハ此犬ニ劣
ルトヤイハン。人タル者ヨク思フベ
シ。

第四課 猫。

斑。瞳子。細針。太尖。粗魚肉。動物。尤鼠。

嗜。

猫は小き家畜にして其毛色は白黒斑
等あり。其瞳子は朝より漸く細くな
りて晝には針の如く又夕となるに従
ひて次第に太くなる。齒は鋭くして
尖り舌は粗にしてあさびねるしの如

し故に魚の骨などにつまきたる肉をね
ぶりとるに都合よし。又足の爪も鋭
く尖りて、常には之をかくし用ふると
きのみ之を現はし出す。猫はよく他
の動物を捕へ、其肉を食ふ中にも尤も
鼠を嗜むが故に、家に畜へば鼠を防ぐ
の益あり。

第五課

猫能ク友ヲ救フ。

餌。飼。半月餘。籠。例。室。放。躍。驚。傍。狙。追。疵。
危難。救。况。

又西洋ノ或ル處ニテ、一疋ノ猫ト一羽
ノ小鳥トヲ畜ヒ置キタル者アリケリ。
此者イカニモシテ鳥ト猫トヲ馴サ
ント思ヒ、餌ヲバ時々一ツ器ニ盛リテ
飼ヒ、小鳥ヲ猫ノ背ニ止ラセナドシ様
々方便ヲカヘ、心ヲ盡シケレバ、斯クス

ルコト半月餘ニシテ漸クニシテ互ニ
馴レ親シニケリ。或ル日小鳥ヲ籠ヨ
リ出シテ室内ニ放チ遊バセ置キケリ。
鳥ハ喜ビ、アチコチ飛ビ廻リテ餘念
モナカリシニ、例ノ猫忽チニ飛ビカ、
リ、ゴレヲ啣ミテ机ノ上ニ躍リ上レリ。
飼主ハ此様ヲ見テ大ニ驚キ、恠ミテ
傍ヲ見レバ、外ヨリ別ニ一疋ノ猫入り

來リテ狙ヒ居レリ。サテハト氣付キ
テ、速ニ其猫ヲ追出シケレバ、例ノ猫ハ
スコシノ疵ヲモツケズシテ、小鳥ヲ主
人ノ前ニ置キタリトゾ。一ノ小畜ダ
モ其友ヲ思フテ、危難ヲ救フコトカク
ノゴトシ、況ヤ人ニ於テヲヤ。

第六課 馬。

項。髮鬣。馴良。使役。豪健。耕作。助。車。牽。貨。

物。運。駿逸。乘馬。

家畜の中にて、最も人間の用をなすものは、馬、牛、羊なり。馬は身の長け高く、其毛色一様ならず。項に長き髪あり、之を鬣といふ。脚は細く、尾は甚だ長し。性馴良にして、能く人の使役に服し、豪健にして、馳すること極めて速なり。馬は常に耕作を助け、車を牽き、貨

物を運ぶ、殊に其駿逸なる者は、乘馬に用ふること、人の能く知る所なり。

第七課 牛。

肥。角。柔順。勞苦。農業。重荷。負。乳。滋養品。蹄。彫刻。棄。

牛ハ其體肥工太リテ、頭ニ兩角アリ。脚ハ短ク、尾ハ細シ。性柔順ニシテ、能ク勞苦ニ耐ヘ、力甚ダ強シ。故ニ農業。

126 X

其他重荷ヲ負ヒ、大車ヲ牽クニ使役ス。
 肉ト乳トハ最上ノ滋養品ニシテ、味
 亦極メテ美ナリ。皮ハ靴ヲ製シ、器物
 ヲ作り、角蹄モ亦小器具ヲ製シ、或ハ彫
 刻ノ用ニ供ス。全身皆用ヲナシテ棄
 ツベキ所ナシ。

第八課 羊。

柔和。變種。卷縮。淡褐。羸弱。罹。剪。効。



家畜の中にて、最も柔和なるものは羊
 なり。羊は變種多し、通常の者は高さ
 二尺許長さ三尺許なり。
 毛は長く柔かにして
 卷縮し、其色は白、淡褐等
 あり。體質羸弱にして、
 疾に罹り易し。毛は剪
 り取りて、羅紗等を織る

に用ひ肉と乳とは味美にして亦滋養の効多し。

第九課

豚。

畜養。殖。頭。頑。愚。貪。殆。腐。厭。佳。

家畜中最モ畜養シ易ク又殖工易キモノハ豚ナリ。豚ハ體肥工頸短ク尾ハ細小ナリ。性頑愚ニシテ食ヲ貪リ殆ド腐リタルモノニテモ厭フコトナシ

サレド其肉ハ食用ニ供シテ味甚ダ佳ナリ。

第十課 雞。

雞。雛。雄。雌。肉。冠。距。具。晨。告。卵。産。

茲に二羽の雞と數多の雛とあり。雄は雌よりも美にして頭に赤き肉冠を戴き脚に鋭き距を具へたり。此鳥は常に人家に畜はれ雄は能く晨を告げ

雌は能く卵を産む。卵と肉とは食用にして滋養の効あり。

第十一課

親ノ戒ヲ守ラザル雛ノ話。



嘗。養。愛。戒。曰。時。睦。若。

嘗テ一羽ノ雌雛アリテ、數多ノ雛ヲ養ヘリ。此雌雛ハ甚ダ雛ヲ愛シテ、少シノ餌ヲ得ルモ、己レハ食ハズシテ、之ヲ雛ニ與ヘリ。常ニ雛ヲ戒メテ曰ク、汝等母ガ外ヘ出デタル間ハ、時ノ中ニアリテ、オトナシク睦ビ遊ベ、決シテ遠ク出デ、遊ブコトナカレ。若シ母ノ戒

ヲ守ラザルトキハ、必ず其身ヲ失フコトアラント。

第十二課 前課ノ續

止。越。意。適。珍。絶。堅。禁。興。其處。徘徊。何處。攫。逃。去。哀。死。

或る日、其中の一羽の雛は、母雞の食餌をあさりに出で、久しく歸らざるを待かね、他の雛の止むるをも聞かず、塹



を出で、籬を越えて、意のままに遠く遊べり。此日は天氣うららかにして、暖和身に適ひ、見るものとして珍しからぬはなく、甚だ心に快きを覺え、自ら思

音通賣本 三編上 十一

庚

へらく、斯の如き樂は、生れてより絶て
知らざる所なり、然るに母の常に堅く
之を禁ずるは何故りと。雛は興に乗
じ、其處此處と徘徊して、餘念なきをり
から、何處よりか來りけん、一足の猫馳
せ近づき、此雛を攫みくはへて、逃げ去
りにけり。見よ、此雛の斯く哀れなる
死を遂げたるは、全く母の戒に従はざ

りし故なり。

第十三課 五穀ノ話。

植物。種類。穀物。貴。稻。豆。粟。稷。用法。

人ノ食用ニ供スベキ植物ノ種類ハ多
ケレドモ、穀物ヲ第一トス。穀物ノ中
ニテモ、最モ貴キモノヲ五穀トス。五
穀トハ、稻、麥、豆、粟、稷ヲ云フ。是等ハ田
或ハ畑ニ作ル者ナレドモ、亦種類ニ從

ヒテ、其作方用法等ニ別アリ。

第十四課 稻

特。緊要。食料。位。栽培。糯。粳。差別。搗。餅。晚。
因。陸稻。

五穀の中にて、米を特に緊要なるもの
とし、食料の第一等に位す。是を以て、
我が國到る處として、之を栽培せざる
はなし。糯と粳との差別は、糯は搗て



餅にすべき米を云ひ、粳は炊ぎて飯に
すべき米を云ふ。此二種とも、其實

る時の早きと晚き
とに因りて、早稻、中
稻、晚稻とに別てり。
皆水田に栽うる
を常とすれども、一
種畑に作る者あり

之を陸稻と稱す。

第十五課 麥

亞。莖。略。硬直。瘦。醬油。味噌。粉。溫飽。素麩。
翌年。

麥ハ米ニ亞グ穀物ニシテ、大麥小麥等ノ種類アリ。大麥ハ莖葉共ニ略ボ稻ニ似テ硬直ナリ。小麥ハ形大麥ニ似テ瘦セタリ。大麥ハ農家多ク炊ギテ



種ヲ下シ、翌年ノ夏ニ至リテ、漸ク實ルモノナリ。

常ノ飯トナシ、又醬油、味噌等ヲ作ルニ用フ。小麥ハ多ク粉ニシテ、溫飽、パン、素麩等ヲ製ス。總

第十六課 豆。

莢。紅。蒔。收。豆腐。餡。豌豆。蠶豆。大角豆。屬。

豆は其類種々あれども、通常多きは大豆、小豆の二種なり。大豆は葉莖莢共に毛あり、花は小にして白色、或は紅色なり。小豆は其莢長くして毛なく、花は黄色なり。皆畑に作る者にて、夏種を蒔き、秋に至りて實を收む。大豆に



は黒白、青黄等の別あり、多く之を以て味噌、醬油、豆腐等を作る。小豆には赤白、緑等ありて、多くは煮て食ひ、又餡を製す。此外に豌豆、蠶豆、大角豆、ふぢま

め等あり、皆豆の屬なり。

第十七課 粟

秣。山郷。穂。斜垂。酒。釀。水飴。蒸菓子。

粟ニ粳糯ノ二種アリ、粳ヲ粟ト云ヒ、糯ヲ秣ト云フ、其外夏秋早晚ノ數種アリ。農家普ク畑ニ作ル、殊ニ山郷ニ多シ。莖葉共ニ大麥ヨリ粗大ナリ。穂モ亦粗大ニシテ多クハ斜垂セリ。粟ハ



ルニ用フ。

第十八課 稷

多ク山民ノ常食トナシ、又酒ヲ釀シ、水飴ヲ造ル。秣ハ或ハ餅トナシ、或ハ飯ニ炊グベシ。又秣ハ多ク蒸菓子ヲ造

同。粘。黍。芒。賤民。團子。

稷も稻と同じく粳、糯の二種あり。稷



はうるきびにして粘り少なく、黍はもちきびにして粘り多し。共に夏其種を下し、秋に至りて收む。其穂は稻に

似て芒なく、穀は粟より大にして、黄白黒の別あり。穀は賤民或は飯となし、或は團子となし、或は餅となす。又之を小鳥の餌に用ふ。

第十九課 蔬菜。

蔬菜。蘿蔔。蕪菁。牛蒡。胡蘿蔔。芋。胡瓜。根。扁。嫩葉。

日常食用ニ供スベキ蔬菜ハ種々アレ



根扁クシテ圓キヲ常トス。蘿蔔、蕪菁、牛蒡ハ葉ト根トヲ食フベシ。牛蒡ハ根長

ドモ、蘿蔔、蕪菁、牛蒡、胡蘿蔔、芋、茄、南瓜、瓜等ヲ最トス。蘿蔔ハ大抵根太クシテ長ク、葉ハ蕪菁曰リコハシ。蕪菁ハ

クシテ色黒シ。胡蘿蔔モ亦根長ケレドモ、其色ハ赤黄ナリ。其二其根ヲ食フモノナレドモ、胡蘿蔔ハ亦其嫩葉ヲモ食フベシ。

第二十課

前課ノ續

併。豚。濃。苗。際。蔓生。蒨。葱。姑。蒿。苣。水菜。菘。葱。薑。

芋は種類多し、皆其根を食用にするも



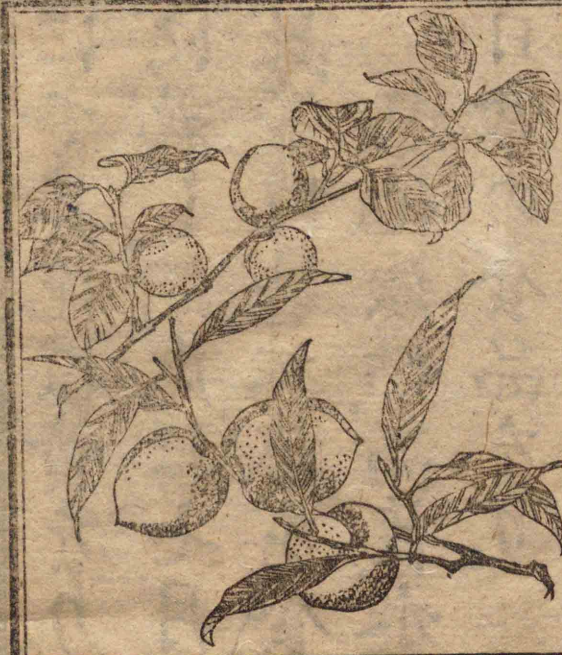
のなれども又其莖
 を併せ食ふべき
 ものあり。茄は莖
 葉脈共に紫色にて、
 其花は淡紫色なり。
 春苗を植ゑ夏秋
 の際實を結ぶ。南
 瓜胡瓜は蔓生の草

にて其花は黄なり。南瓜は八九月頃
 に熟し、胡瓜は七月頃に至りて熟す。
 此等は皆其蔬を食用とするものなり。
 其他慈姑、萵苣、水菜、菘、葱、薑等あり、皆
 日常の食品なり。總て蔬菜は山野に
 自生するもあれども多くは畑に作る
 ものなり。

第二十一課 梅、桃

果實。梨。葡萄。柑。枇杷。單瓣。賞。

果實ノ食フベキモノ種々アレドモ梅、桃、梨、柿、葡萄、柑、枇杷等ヲ佳品トス。桃



ハ其花單瓣、重瓣、紅、白等アレドモ、其單瓣ニシテ淡紅ナル者、實ヲ結ブコト多シ。梅モ亦花ニ單。

瓣重瓣ノ別アリテ、其色ニハ白ト紅トアリ。多ク實ヲ結ブハ白花單瓣ナルモノニテ、重瓣ナルモノハ花ヲ賞スルニ過ギズ。

第二十二課 梨、柿、葡萄。

諸果。魁。尚。貯。頗。多漿。陰乾。

梨は四月頃白花を開き、八九月に至りて果熟す、味甘美にして諸果中の魁を



果は生にて食ひ、或は乾して貯ふ、味極めて美なり。葡萄は其花六月頃に

り。一種かこひなしと云ふあり、年を越えて尚ほ貯ふべし。柳は品類頗る多し。花は初夏に開き果は秋に熟す。

開き實は九月に熟す、多漿にして甘味あり。生にて食ふべく、陰乾して貯ふべく、或は葡萄酒を醸すべし。

第二十三課 柑、枇杷。

刺。酸甘。香氣。生育。簇。核。林檎。李。石榴。

柑ハ枝ニ刺多ク、花ハ夏開キ、白色ニシテ小ナリ。實ハ形扁クシテ、冬ニ至リテ熟スレバ、其色黄赤トナル。其味酸



甘ニシテ香氣アリ。
人好デ其實ヲ生
食ス、又其汁ニテ酒
ヲ釀ス、之ヲ柑酒ト
云フ。枇杷ハ樹ノ
生育スルコト甚ダ
遅シ。其花ハ冬月
簇リ開ク、白色ニシ

テ小ナリ。實ハ翌年七八月ニ至リテ
黄熟ス、其味甘美ニシテ、肉少ナク核大
ナリ。此他林檎、李、栗、石榴等ハ、皆果ノ
美ナルモノナリ。

第二十四課 地球の話。

爰。世界。恰。地球。陸。倍。恐。平坦。想。課。證據。

爰に畫けるは、我等の住居する世界の
圖なり。其形圓くして恰も球の如し、



球の圓きことを知れり也。恐らくは皆平坦なるものと想ひ居るならん。今次の課にて其圓き證據の一ニを示

故に之を地球と云ふ。其表面は陸と水とより成り、水は多くして殆ど陸に三倍せり。汝等地

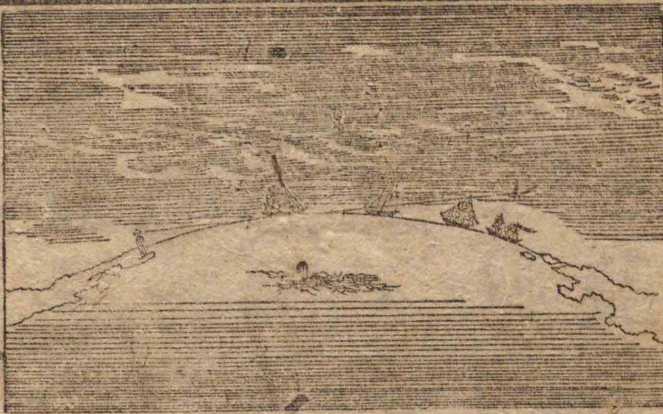
すべし。

第二十五課

前課ノ續

静。濱邊。船。港。遙。帆。檣。全體。彎。橋。隱。認。聞。周。回。元。

汝等海面ノ静カナル日、濱邊ニ立テ船ノ入港スルヲ見シコトアリヤ。初メハ遙ニ帆檣ノミヲ見レドモ、次第ニ近ヅクニ隨ヒ、漸ク其全體ヲ見ルベシ。



是レ長キ彎橋ヲ渡ルニ橋ノ彼方ソ人ハ腰ヨリ以下隱レテ見エザレドモ其近ヅクニ及ンデ全身ヲ認メ得ルニ同ジ。汝等又世界ヲ一周セシ話ヲ聞カズヤ。西ニ向テ行クモ東ニ向テ行クモ同ジク世界ヲ周回シテ終ニ復タ元ノ處

ニ歸リ來ルナリ。此等ハ皆世界ノ圓キガ故ニ然ルモノナリ。

第二十六課 富士山。

富士山。駿河。甲斐。跨。真直。頂上。丈。播盆。伏。望。半腹。砂石。積雪。冷。

我が國にて山の最も高きは富士山なり。此山は駿河甲斐といふ二つの國に跨りて、真直に頂上まで千二百丈餘



あり。其形は恰も
 播盆を伏せたる如
 く、何れの地より望
 むも同じ形に見ゆ
 るをり。山の半腹
 より上は砂石のみ
 にて、更に草木を生
 ぜず。頂上は四時

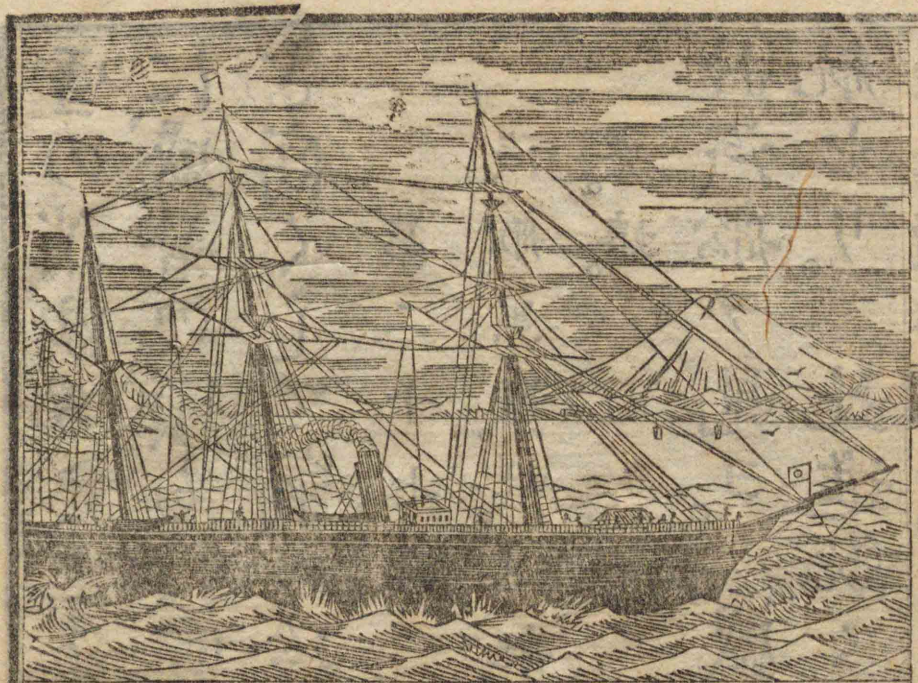
雪の消ゆることなし。凡て高山の頂
 に、盛夏の頃も積雪の消えざるは、其甚
 ど高くして氣の冷かなるが故なり。

第二十七課

汽船

汽船。黒煙。吐。進航。相摸洋。貿易。數週間。
 聳。嬉。

此汽船ヲ見ヨ。盛ニ黒煙ヲ吐キテ進
 航セリ。此進航スル海ヲ何處ト思フ

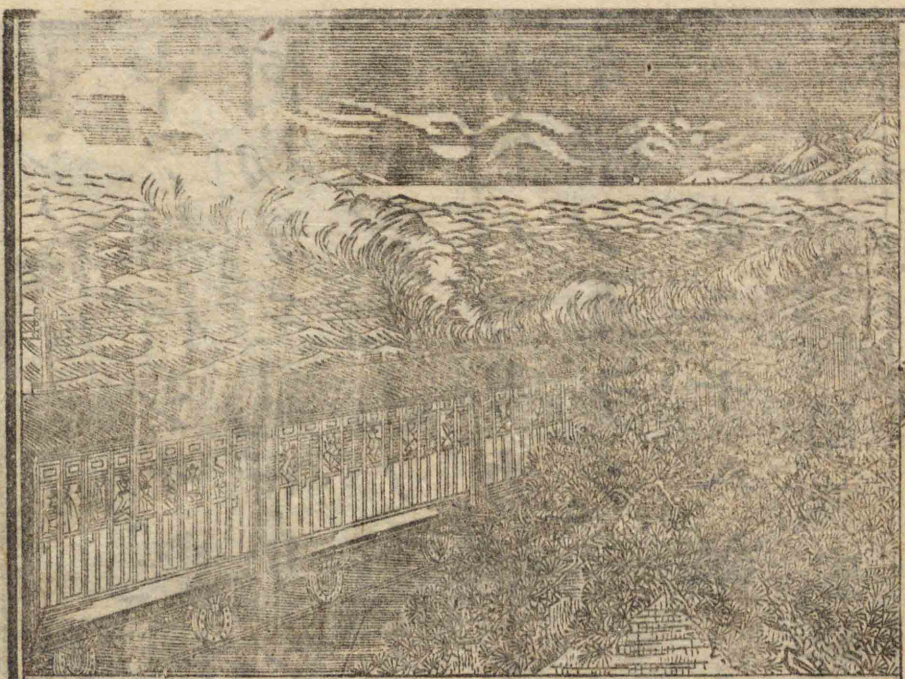


ヤ。相摸洋トイヘ
 ル處ヲ東ニ走レル
 ナリ。今此汽船ハ
 外國ヨリ我が國ニ
 歸リ來ルモノナリ。
 船ニ乗レルハ、久
 シク外國ニ在リテ
 學問シ、或ハ貿易ヲ

セシ人々ナリ。此等ノ人々ハ、大洋ノ
 中ヲ航行シテ、數週間水ト天トノ外ハ、
 何物ヲモ見ザリシニ、今我が國ニ近ヅ
 キテ、富士山ノ高ク聳ユルヲ見、其心中
 如何バカリカ嬉シカラシ、如何バカリ
 カ樂シカラシ。

第二十八課 汽車。

駛。蒸氣。機關。旅客。瞬間。發明。運輸。交通。容易。



上の圖を見よ。數
 多の車を列ね、煙を
 吐きて、飛ぶがごと
 く、駛せ行くもの
 あり。此は汽車の
 海岸を通行すると
 ころなり。煙の出
 づるは前なる車より

て、其中に蒸氣の機關を仕掛けたり、故
 に之を機關車と云ふ。又列車より多
 くの旅客と荷物とを載せたれども、此
 機關車の引く力にて、瞬く間に數里を
 駛するなり。此汽車と彼の汽船の發
 明ありてより、運輸交通の便利を得た
 ることは、筆にも言葉にも盡しがたし、
 廣き世界も、容易く一周するを得るに

至れり。

第二十九課 海岸ノ遊。

鶴松。龜吉。誘。清朗。波。穩。幾多。島嶼。數艘。
漁舟。拾。貝殼。汲。井。鹹。

一日鶴松ハ龜吉ヲ誘ヒテ海岸ニ遊ベ
リ。此日ハ天氣極メテ清朗ニシテ風
和ニ波穩ナリ。幾多ノ島嶼海中ニ列
リテ、數艘ノ漁舟其間ニ往來セリ。鶴

松ハ籠ヲ携ヘ、龜吉
ハ桶ヲ持テリ。今
鶴松ハ何ヲ爲ルヤ。
海草貝殼等ヲ拾
ヒテ籠ニ入ル、十
リ。龜吉ハ何ヲ爲
ルヤ。海ノ水ヲ汲
ミテ桶ニ充ツルナリ。



海ノ水ト井ノ

水トハ如何ナル差別アリヤ。海ノ水ハ鹹クシテ井ノ水ハ淡シ。

第三十課 天長節

天長節。祝。天皇陛下。御誕生。當申。軒。官人。休暇。賜。罷。聖壽。萬々。歲。祈。安。送。飽。職業。營。枕。恩。澤。銘。拜。謝。者。

今日は十一月三日にて天長節なり。汝等は天長節と云ふは如何なる祝日

なることを知れりや。此は我が天皇陛下の御誕生の當日にて、其天地と長久ならんことを祝し奉りて、天長節とは申すなり。されば家々の軒には、皆國旗をかゝげ、官人は休暇を賜はり、學校生徒も誓古を休み、農商工まで各其業を罷めて、聖壽の萬々歳ならんことを祈り奉るなり。四民のかく安ん

世を送りて、飽まで食し、暖に衣、各自ら
 職業を營み、夜は枕を高くして、安眠す
 ることを得るものは、皆是れ。天皇陛下
 下の御恩澤なり。常に心に銘して、朝
 夕に拜謝し奉るべきなり。（卷首ノ畫ヲ見ヨ）
 君が世は千代より八千代にさしを石の
 いまはとをりて、苦のむすまで。
 君が代も千代ともさし、其の戸や

いづる月日のかぎりなるをば。

普通讀本三編上
集英堂藏版

小田切潭城書
松本楓湖畫
小林樵湖
栗原三刻

普通讀本三編上 終

明治十九年十一月四日版權免許
同年十一月出版
同二十年三月十九日訂正再版御届
同同二十年三月三十日訂正三版御届

定價金九錢



編者

高橋熊太郎

東京府平民

下谷區竹町一番地

出版人

小林八郎

東京府平民

日本橋區通旅籠町十一番地

東京日本橋區通旅籠町十一番地
發兌 枋木縣下宇都宮大工町四十一番地
大坂東區博勞町四丁目十五番地

集英堂本店
集英堂第一支店
集英堂第二支店

廣島縣下

廣島市字江波古

四番地寄留

長門靜生用

明治廿三年二月廿三日來之

光道館生徒